



県立広島大学 Prefectural University of Hiroshima

# 地域連携センター報

Vol. **30**

COMMUNITY LIAISON CENTER 令和2年3月19日発行

県立広島大学地域連携センター

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号 電話082-251-9534 E-mail:renkei@pu-hiroshima.ac.jp

## 県立広島大学シンポジウム「地域課題解決研究等発表会」

広島県内の自治体や公的機関・団体等が抱える地域課題の解決を図るため、県立広島大学では地域と連携して地域課題の解決に向けた取り組みを行う2つの事業：地域課題解決研究並びに地域戦略協働プロジェクトを行っています。今回、その研究成果を発表するシンポジウムを、11月26日に、サテライトキャンパスひろしまにて開催しました。当日は、過去3年間に実施された地域課題解決研究の中から選抜された4研究について講演が行われ、事業の狙いや地域への効果、今後の展開等について活発な議論がなされました。講演タイトルは次のとおりです。

講演1：戦国期毛利氏の饗応食の再現とその多面的活用

講演2：イノシシ等有害鳥獣を近づけさせないプロジェクト

講演3：意外と知らないレモンのチカラ；レモンを通じた健康創生プロジェクト

講演4：地域文化資源の学術研究による新たな魅力のある観光情報の発信

また、講演に先立って、包括協定自治体と連携して実施している地域戦略協働プロジェクトの成果を紹介するポスター展示も行いました。

シンポジウムには、地域の自治体関係者をはじめ、県内企業や団体の方、事業関係者及び一般市民の方の参加があり、本学の地域連携・貢献活動に高い関心をいただいていることがわかりました。今後とも、こうした関心、期待に応えるよう地域貢献活動を継続していきたいと考えています。



## 令和元年度包括協定自治体との意見交換会

包括連携協定を締結している自治体（7市1区2町）との地域戦略協働プロジェクトや地域連携に関する意見交換会を、11月26日に、サテライトキャンパスひろしまにて開催しました。毎年、本学と各自治体とが連携して実施している地域戦略協働プロジェクトの進捗状況の報告や、連携事業等に関する協議、情報交換等が行われています。

地域戦略協働プロジェクトは、各自治体が抱える地域の課題について本学教員が自治体と連携して課題解決に取り組む事業であり、本意見交換会では、自治体の担当者を交えてこれまでの実施状況の説明や進捗状況の確認を行いました。自治体からの課題は、子供や高齢者の健康福祉、女性の社会進出に関わる取り組みや、地域の人口減少や外国人の受け入れに関する対応の他、農業、観光、地域通貨等多岐にわたっており、本学の多様な研究内容を活かして地域の様々な課題やニーズに取り組んでいます。

本学ではよりいっそう地域の課題を把握し、自治体をはじめとする地域の関係者が活用できる成果を生み出すべく本プロジェクトの進捗管理を行っており、意見交換会での進捗状況報告では具体的な活用を見越した事業実施状況について重点的に説明を行っています。また、自治体側からの説明や進捗評価も意見交換の場で行われ、双方向での進捗管理や事業運営がなされています。



# 広島キャンパス

HIROSHIMA CAMPUS

## 公開講座

### 履修証明プログラム

県立広島大学では、今年度から社会人を対象とし履修証明プログラムを開設しており、今年度は次の2つのプログラムを実施しました。

#### 1 「AI活用人材育成プログラム」

次の3つの公開講座と大学院授業科目で構成

- ①即戦力となる人工知能人材育成のためのプログラミング講座～機械学習編～（公開講座）
- ②データサイエンティスト人材育成実践演習（公開講座）
- ③即戦力となる人工知能人材育成のためのプログラミング講座～基礎編～（公開講座）
- ④計算知能システム研究（大学院授業科目）



#### 2 「宮島学で学び直す世界遺産厳島神社と宮島」

- ①くずし字で学ぶ宮島－近世資料を読み解く－
- ②宮島学特論（来年度実施）

### 公開講座・連携公開講座

令和元年度に次の公開講座を実施しました。

#### 1 本学主催による公開講座（11講座）

「American Industrial Revolutions（アメリカの産業革命）」「英語発音講座－アルファベットからナーサリーライムまで－」「健康科学連続講座」「明治の英語学習法：教科書とその参考書から考える」「大学・学び直し塾－情報学の今－」「健康づくりと運動－中高年のための簡単筋トレ－」「経営情報学連続講座（3月26日開講予定）」、並びに履修証明プログラム対象3講座

#### 2 外部機関との連携公開講座（10講座）

「誰でもできる！サーキットトレーニング」「憲法を学ぶ－パート2（応用編）－」「日本文化における色彩」「厳島合戦再考－これが合戦の実像だ－」「川をめぐる文学と美術」「わくわく料理教室：お昼ごはんをつくろう！」「お子様連れで学べるマネジメント基礎講座」「日本近代文学のはじまりと展開」「読み切り文学講座」「22世紀を支える子どもへの教育」

#### 3 広島市立大学との連携公開講座（2講座）

「ひろしま学を考える」「言語を通じて世界を知る」

## キャンパスメンバーズ

### ミュージアムツアーを実施しました

県立広島大学は、学生・教職員が広島県内の美術館・博物館を活用して優れた芸術・音楽・文化に触れることを支援するキャンパスメンバーズ制度に加入しています。地域連携センターでは、キャンパスメンバーズ制度の活用と学生の学修支援を目的として、毎年ミュージアムツアーを行っています。



令和元年10月19日に、広島キャンパスの学生・教職員を対象として、日本の二大印象派絵画のコレクションを誇るひろしま美術館とポーラ美術館が所蔵する印象派の巨匠たちの絵画鑑賞を行うミュージアムツアーを実施しました。

学生・教職員51名がひろしま美術館を訪れ、ポーラ美術館とひろしま美術館の共同企画「印象派、記憶への旅」で展示された作品について学芸員からマネやゴッホ、マティスがどのように絵画を描いたかなどの見どころについて解説を受けて鑑賞しました。



## 地域連携・産学連携

### 産学官連携、知財、安全保障輸出管理セミナー

令和元年12月10日に庄原キャンパスにおいて、教職員を対象にして地域連携センターの西川洋行准教授による産学官連携共同・受託研究セミナー及び安全保障・輸出管理セミナー、安藤由典准教授による知財セミナーを開催し、庄原キャンパスから広島キャンパスと三原キャンパスに同時配信しました。

56名の参加者に対し、産学官連携共同・受託研究セミナーでは、外部資金の種類や連携の方法、企業等との協議、学生参加の注意点等について、知財セミナーでは、知的財産権の基礎、特許権と職務発明、



出願時の手順等について、安全保障・輸出管理セミナーでは、大学における安全保障輸出管理、留学生や外国との連絡・交流等に関する注意点等の講演が行われました。いずれも本学における研究活動や産学連携活動、地域連携活動でのポイントや注意点について理解を深める講演で、今後の活動にも有効活用されるものと思います。

### 第14回広島県信用金庫合同ビジネスフェア出展

広島県下の4信用金庫（広島信用金庫、呉信用金庫、しまなみ信用金庫、みどり信用金庫）合同の主催による「第14回広島県信用金庫合同ビジネスフェア」が、「新たな時代の新たな出会い 令和もやります！～しんきんビジネスフェア～」をキャッチフレーズに11月13日に広島グリーンアリーナで開催されました。

本学は、県下の他大学と共に「産学連携」ゾーンにブースを構え、話題性のある産学連携プロジェクトを中心に以下の内容で出展しました。

#### ○毛利氏の饗応食（健康科学科・杉山教授）

文献に残る毛利家の食事（献立）を現代に再現したプロジェクトについて、再現の過程や献立の内容について展示を行いました。



#### ○防災プロジェクト（経営管理研究科・江戸教授）

昨年の豪雨災害で浮き彫りとなった避難行動等の課題に対処するため、マーケティング的視点を取り入れた研究成果を展示しました。



その他、HBMS紹介・募集案内を配付しました。

当日は、多くの来場者が足を止めて本学ブースに立ち寄られました。今回の出展により、多くの方に本学の地域貢献活動や研究内容に関するPRができたものと考えています。

## 研究紹介

### 最先端人工知能(深層学習)の研究開発

地域基盤研究機構 高度人工知能プロジェクト研究センター  
特命講師 鎌田 真

現在、第3次AI（人工知能）ブームと呼ばれ、様々な分野でIoTやAIを活用した製品化が進んでいます。AIと言っても多くの種類があり、ひと昔前の知識ベースの推論や学習機能を持つ機械学習、最近注目されている深層学習があります。深層学習（Deep Learning）は、生物の神経回路網を模倣したニューラルネットワークを拡張した手法で、画像認識の世界大会で優秀な成果を示すようになってから特に注目されるようになりました。



深層学習では、取り扱うデータに応じてモデルの大きさやモデル内のパラメータを試行錯誤的に調整しなければ高い性能が得られません。私の研究では、こうしたパラメータを取り扱うデータの特徴に応じて自動で発見する構造適応型深層学習モデルを開発し、他と比べて高い性能を実現しました。

開発した手法については、様々なデータに応用可能であると考えています。学生時代には、本学地域基盤研究機構長市村匠教授とともに、競争的資金や共同研究等を通じて医療画像における疾病分類、位置検出、計測データの時系列予測等に応用し、様々な成果を挙げてきました。現在は、西日本豪雨災害を受け、このような災害を未然に防ぐため、砂防ダムや橋梁等の点検を最先端AIが搭載されたドローンで行い、安心・安全な生活を送るための実証実験をNICT委託研究で実施しています。今後も、深層学習の理論的な開発を行うとともに、成果を地域に還元できるよう、実証的な研究に取り組んでいきます。

### 広島交響楽団特別講義

令和元年12月16日に広島キャンパスで、クラリネット奏者の品川秀世氏による特別講義を開催しました。本学は広島交響楽団のキャンパスメンバーズ制度に加入しており、その特典の一つとして、平成25年度以来毎年、広島キャンパスで団員による特別講義を提供していただいています。

今年度は「クラリネット・アラカルト」というテーマで、クラリネットの実際の演奏を交えて、オーケストラの歴史やクラリネットの音が出る仕組みなどをお話ししていただきました。

出席した学生から「楽器をこんなに近くで聞く機会はないので、とても貴重な体験でした。」という声もあり、生演奏を聴きながらクラシック音楽の知識を深める良い機会となりました。



# 庄原キャンパス

SHOBARA CAMPUS

## 学術講演会

12月6日の2限目に、県立広島大学学術講演会を庄原キャンパスの大講義室で開催しました（本学主催、しょうばら産学官連携推進機構共催）。

昆虫は、地球上の生物のかなりの割合を占めますが、分類されていない種も多くあり、生態についてまだ分かっていないものも数多く存在します。今回は、アリやシロアリの巣に共生する昆虫（好犠牲・好白蟻性昆虫）の分類を専門としながら、昆虫について多くの一般書を書かれている九州大学総合博物館の丸山宗利准教授を講師としてお招きし、「すごい昆虫を探して世界をまわる」というタイトルでご講演いただきました。

昆虫とは何かというお話やどれだけの種が地球上にいるのかというお話からはじまり、昆虫のさまざまな生態や世界中で収集された珍しい昆虫を美しい写真とともに紹介していただきました。私たち人間がやっている行動や、築いてきた社会・文明によって生じた物事は、ほとんど昆虫が先にやっているというフレーズが非常に心に残りました。最後のほうでは、アリの巣に共生する昆虫の進化について最新の研究成果も紹介されました。

生物学の神髄である、生物の多様性や生態の面白さが凝縮されたような講義でした。講演会の前から多くの市民の方々から問い合わせをいただき、当日は家族連れも含め160人の聴衆に参加いただきました。本学学生や市民の方々からも活発な質問があり非常に楽しい講演会となりました。



## 公開講座

### 庄原市民公開講座

10月28日、11月5日、14日、19日の4回シリーズ

で庄原市民公開講座「庄原の生活・環境を考える」を行いました。2回から3回目は実験講座となっております。本学の実験器具を使って、大学の雰囲気味わってもらいました。

また初回は、本学の大学院生3名が庄原市での暮らしで感じている良い点や課題について率直に話をし、住民と意見交換を行いました。今回は延べ63名が受講し、12名が修了証書を手に入れました。なお、2020年度は、多文化共生とコメをテーマに講座を実施する予定です。

回	演 題	講 師
1	県立広島大学学生から見た庄原の暮らし	県立広島大学 大学院生
2	DNAでお米の品種識別	生命環境学部 教授 福永 健二
3	庄原の景観や食に通ずる樹木や野草の成分を観る	生命環境学部 教授 萩田信二郎
4	PM2.5を測定し、庄原の大気環境を知る	生命環境学部 助教 柳下真由子



### おもしろぶつり実験

「おもしろぶつり実験」講座を8月20日、21日の日程で行いました。初回は18名、2回目は21名の小学生の参加がありました。大学の実験室で大学生のように班になって、実験器具を使って虹のしくみや音について学びました。実験って楽しいなと多くの子どもが感じたようです。今回の企画では、庄原市立口北小学校に協力をお願いし、多くの児童に参加していただきました。

来年は、「おもしろりか(たべもの)実験」として8月20日、21日に実施する予定です。

回	演 題	講 師
1	虹ができるしくみ	生命環境学部 教授 加藤 一生 保健福祉学部 講師 中村 悟
2	音を目で見る	広島県立保健福祉大学 名誉教授 岩谷 和夫 保健福祉学部 講師 中村 悟



### 学生と地域で関わる～その手法と課題

11月12日に主催講座「学生と地域で関わる～その手法と課題」を開催しました。初回が14名、2回目が9名の参加でした。講座では、過去、実際に学生を地域に関わらせた教員がそのプログラムを紹介し、学生をどう地域に巻き込めるのか、その手法や留意点について実践的に紹介しました。学生を地域に関わらせることは本学にとっても重要ですが、以前のように「ただ行かせる」のではなく、教育的効果や交通費など配慮すべき問題もあります。当日は、学生も参加し、受講生と様々な意見交換も行いました。

回	演 題	講 師
1	学生と地域の協働での加工食品開発	生命環境学部 准教授 吉野 智之
2	畦畔管理に適したカバープランツを求めて	生命環境学部 教授 入船 浩平



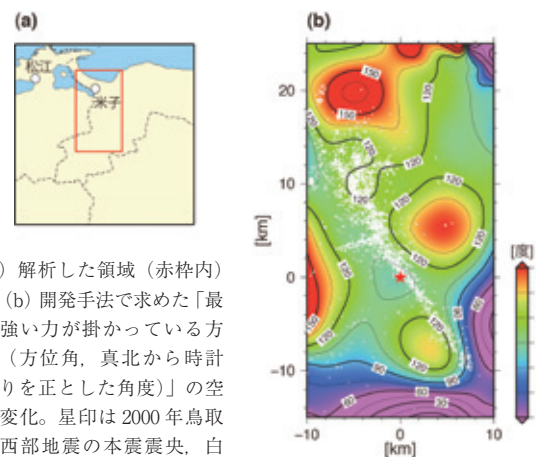
## 研究紹介

### 地表から地中を「観る」試み:地下応力推定手法の開発

総合教育センター 准教授 岩田 貴樹

我々が日々その恩恵に浴している通り（その度合いは人それぞれでしょうが）天気予報は既に実用化されています。他方、「地震予報」が実現される兆しは一向にありません。その理由の1つに「観測の困難さ」があります。天気予報を精度良く行うには、現在（や過去）の気温・気圧・湿度…といった大気の状態を知る必要があります。様々な手段で気象観測が行われています。これと同様に、地震予報には地下の状態を知ることが必要不可欠です。しかし、多くの地震が起きる地表から数～数十kmの深さに観測機器を到達させて観測を行うことも、気象観測におけるレーダーや人工衛星のようなもので地中を「観る」ことも現在の技術では不可能です。それでも、地表あるいは地下のごく浅いところに設置された地震計などから得られる限られたデータから、地中の物理状態を「観る」ための試みがなされています。

最も速く地表に達する地震波である「P波」の最初の部分を「初動」と呼びます。P波初動には地面を「押し上げる」か「引き下げる」かの2種類があり、これは地震が起きた場所（震源）における応力（圧力）の向き、即ち、最も強いまたは弱い力が掛かっている方向に関する情報を持っています。このP波初動のデータを大量に集め、「ベイズ推定」と呼ばれる統計的枠組みの下で解析することで、地下応力の空間変化を求める手法を開発しています。例えば、2000年鳥取県西部地震の余震域では図に示すように、応力の複雑な空間変化が得られています。



(a) 解析した領域（赤枠内）と (b) 開発手法で求めた「最も強い力が掛かっている方向（方位角、真北から時計回りを正とした角度）」の空間変化。星印は2000年鳥取県西部地震の本震震央、白点は余震の震央を表す。

（「文部科学省 科学研究費補助金 新学術研究『地殻ダイナミクス』」ニュースレター Vol.5 (2020) を改変）

## 三原キャンパス

MIHARA CAMPUS

### 地域活動

#### 学び合いチャレンジ

作業療法学科の学生が、三原キャンパス構内で三原特別支援学校高等部の生徒とカフェの運営及び清掃活動を実施しました。この取組みは、三原特別支援学校の生徒が地域社会で働く能力を養うことと、本学学生が作業療法士の視点から就労支援の方法を学ぶことを目的として行われました。

カフェ運営グループは、接客やコーヒの淹れ方について話し合いと練習を繰り返しました。学生はイラスト入りの資料や実演を用いて改善案を生徒にわかりやすく伝え、生徒は提案に対する疑問や自分たちの意見を積極的に発言していました。



開店当日は、失敗してもくじけないことや笑顔で対応することを心掛け、お客様を迎えました。満席やおつり不足等の不測の事態にも、皆で声を掛け合い冷静に対応することができました。お客様には、「笑顔がとても素敵」「このまま常設してほしい」と大変喜んでいただきました。



清掃活動グループでは、学生が「不慣れな環境でのコミュニケーションと臨機応変な対応を経験すること」を提案し、レクリエーションを使ったコミュニケーションやゲームでの役割分担決め等、普段とは違う流れで清掃作業に挑戦しました。話し合いの時間には、生徒一人ひとりの課題と問題に対する改良案を一緒に考えました。



実践では、生徒は発注者の希望を基に必要な道具や作業手順を検討し、学生は生徒に道具の使い方を教わりながら清掃活動に取り組みました。初めは互いに遠慮がありましたが、相談や質問を繰り返し、皆で改善策を考えながら進めることができました。発注者にも大変満足していただきました。



最終日は、それぞれのグループがこれまでの活動内容や活動を通して成長したこと、今後の課題等についてまとめ、発表を行いました。学生と生徒の意見交換では気づきや感じたことを伝え合い、互いの考えに新たに気付くこともありました。

この活動を通しての成果や課題は、今後のそれぞれの学びにつながるものとなりました。こうした経験を活かし、将来彼らが地域で活躍してくれることを期待します。



### 市民講座

#### 三原シティカレッジ講座

三原シティカレッジは、地域の方々に本学の研究成果を広め、日々の生活に役立ててもらうことを目的として開催しています。毎年多くの市民が参加しており、案内開始前から「受講の申込みはいつからなのか」「今年はどんな講座があるのか楽しみにしている」と言っていたほど定着しています。

市民講座では、高齢者や認知症の方と上手にコミュニケーションできる工夫を学ぶ講座や、介護保険サービスについて学ぶ講座を開催しました。受講者からは、「将来の参考になった」「さっそく実行したい」等の感想をいただきました。

夏休み特別講座では、赤ちゃんのお世話の仕方や高齢者のからだの動きを体験する講座や、筋肉の動きを筋電図で観察する講座を開催しました。参加した子ども達は初めて見る機器に大変興味を持ち、教員や学生に使い方や不思議に思ったことを次々に質問しながら楽しく学習しました。

シティカレッジの様子は、三原テレビ放送と三原市、本学が連携して制作している健康情報番組「県大でけんこう！」で紹介されました。放送された番組は、本学ホームページ及び公式YouTubeでご覧いただけます。



## 研究紹介

### 疼痛リハビリテーションの進展

保健福祉学部理学療法学科 教授 西上 智彦

2019年9月から県立広島大学に勤務しております。これまでに、疼痛リハビリテーションの進展を目標に、疼痛研究及び臨床を行ってきました。特に、3ヶ月以上痛みが続く慢性痛に着目しております。



本邦における慢性痛の有病率は全成人の22.5%、推計患者数は2315万人と報告されており、社会問題になっています。慢性的に疼痛を抱えている方では、単に筋、骨、靭帯などが損傷しているから疼痛を感じるだけではなく、脊髄、脳などの様々な中枢神経系の変調が影響していることが明らかになってきています。このような器質的に説明し得ない症状（抑うつ、過敏性腸症候群、慢性疼痛など）の総称として中枢性感作症候群として呼称されています。

これまでに、私達は中枢性感作症候群と疼痛の関係の研究を行ってきました。まず、米国で開発された中枢性感作症候群を評価する質問表であるCentral sensitization inventory (CSI)の日本語版を作成しました。さらに、負担の軽減のため、短縮版CSIも開発しています。

横断研究において、CSIは乳がん術後の疼痛に関与すること、変形性膝関節症と慢性腰痛では疼痛強度や能力障害に対するCSIの影響が異なること（日本イーライリリーとの産学連携研究）を報告し、縦断研究において、初期評価時CSIが40点以上であると、理学療法3ヶ月後の能力障害が十分に改善しないことを報告しました。つまり、中枢性感作症候群は疼痛と関連し、中枢性感作症候群が高い症例では、従来の理学療法では改善が難しいことが多いということです。

現在、中枢性感作症候群の研究は、地域在住高齢者や勤労者も対象として行っています。器質的に説明し得ない症状の有訴率を明らかにし、その原因を追求し、対応策を模索することは地域における健康問題を解決する一助になると考えております。

### 認知症予防研究と地域の体制づくり

保健福祉学部理学療法学科 助教 高宮 尚美

私は、脳の機能を科学的に調べ、その成果をリハビリテーションに生かす研究を行っています。現在最も注力しているのは、認知症予防と地域で支え合う体制づくりです。

一般的に認知症は不治の病といわれますが、軽度認知障害（正常な状態と認知症のちょうど狭間の段階）になるさらに前の段階で、認知症リスクを「早期発見」し、「運動で認知症発症を予防・遅延する」ことを私は目指しています。認知症の前段階である軽度認知障害を放置しておくと、約半数がそのまま認知症を発症するといわれますが、10~40%が認知機能を取り戻すともいわれます。つまり、より早期にリスクを知り、適した対応を促すことで、認知症への移行をさらに阻止できる可能性があります。脳波を用いた研究では、地域で自立した生活をしている高齢者のうち、記憶力が低下しがちな人や一定時間のウォーキングで歩数が少ない人で、認知症に関わる脳の神経活動に低下や遅延を認めました。このことから、

- 1) 軽度認知障害のさらに前段階で脳の神経活動低下を発見できる可能性があること
- 2) 歩行と神経活動に関連があること

がわかりました。今後は、ウォーキングなど日常的な軽運動が脳の神経活動に与える作用を研究していく予定です。

また研究活動と並行して、認知症予防事業も実施しています。こうした地域活動では、本学学生やさまざまな専門資格を有す教員（医師、看護師、診療放射線技師、理学療法士など）、行政、地域住民の協力のもと、その町で健康に生活し続けるための体制づくりを模索しています。今年度は地元高校生とのコラボレーションも実現し、地域づくりの主たる担い手である壮年・高齢世代だけでなく、若い世代にも地域課題に対峙し協働する機会を提供できました。今後も、このような地域の強みをさらに高め、長期化した高齢期の新たな過ごし方を提案し、生活者を主体とした地域の目指す姿を具現化するお手伝いをしたいと考えています。



## 研究者紹介名簿発行

本学は、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を基本理念として掲げており、本学の持つ研究力を、産学官連携の推進や地域が抱える課題の解決等、日頃温かく支援して下さる地域の皆様の生活に役立てたいと考えています。

地域連携センターでは年1回、県立広島大学に所属する教員の研究内容、活動内容、専門分野を地域の皆様に知っていただき、共同研究、受託研究、講演会への講師派遣等を通じて地域社会に貢献することを目的として、それらを分かりやすくまとめた研究者紹介名簿を発行しています。



研究者紹介名簿は、教員名の索引の他、キーワードの索引を掲載し、皆様が求める分野の教員を見つけやすいよう工夫をしています。また、一人ひとりの紹介にはQRコードが添付されており、それを読み取ることで、より具体的な研究内容を閲覧することができます。発行した冊子は各キャンパス内で配布している他、包括協定先の自治体や、公民館、文化センター等、地域の方の目に留まる場所へ設置していただいていますので、ぜひご覧ください。

当センターは、研究者紹介名簿を活用することで、公開講座の開催や地域産業の振興、地域課題の解決を希望される皆様とその要望に沿った教員が、共に地域社会の活性化を推進できると考えています。共同研究や講演等のご要望がありましたら、各キャンパスの地域連携センターへどうぞお気軽にお問合せください。お待ちしております。

研究者紹介名簿は、県立広島大学のホームページからもご覧いただけます。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/kenkyu-shoukai/>

地域連携センター報は本学ホームページにバックナンバーを掲載していますので、ご活用ください。

地域連携センターの活動についても、あわせてご覧ください。

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>



### 編集後記

地域連携センター第30号をお届けします。本号では、地域の課題を解決するために、本学教員と地域の関係者が協働して取り組んでいる活動についてご紹介しました。各キャンパスのページでは、公開講座、地域交流、研究者紹介など、それぞれのキャンパスの特性を活かした活動の様子を報告しています。

今後も地域の皆様のご期待に応えられるように様々な事業に取り組んでまいりますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

### 編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター  
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号  
電話(082)251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp  
<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

### 各キャンパス問合せ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター  
〒727-0023 広島県庄原市七塚町5562番地  
電話(0824)74-1704 / E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター[本号編集担当]  
〒723-0053 広島県三原市学園町1番1号  
電話(0848)60-1200 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp